



宮崎県内で口蹄疫の流行が始まり、初期の感染拡大防止に失敗して、県内は大混乱に陥っている。今後の対応に活かすために、初期対応が失敗した理由はキチンと検証されなければならぬ。一方で、感染拡大防止のため、大量の牛や豚が、感染しているかどうかを問わず殺処分されている。何とかならないのかとの疑問も浮かぶ。

口蹄疫対策に対する幾つかの疑問

初期段階でもっと厳しい対応をとるべきだったのではないかと、と考へつつ、過剰な殺処分はやり過ぎではないかと感じています。多くの国民はそうした矛盾した感情を抱いているのではあるまいか。

口蹄疫について専門的知識があるわけではないが、政府や宮崎県の一連の対応を見ながら、幾つかの疑問について筆者なりに調べてみたので、本稿を借りて整理しておくことにしたい。

宮崎県の口蹄疫の感染拡大
宮崎県で口蹄疫ではな

「宮崎県の口蹄疫の感染拡大」
宮崎県で口蹄疫ではな

口蹄疫は、口の中やひ

易なことでは収束できな

「なぜ殺処分するのか」

「疑い患者」は感染して

「口蹄疫」は感染して

「ワクチン」を接種すれば

「ワクチン」を接種しても

これらの牛や豚は殺処分されることになるが、それだけでなく、5月19日の対策本部決定で、感染し又は感染が疑われる家畜から半径10km以内にいる牛や豚もすべて、ワクチン投与の上で殺処分されることとなった。

その数を合わせると、合計27万7000頭もの牛や豚が殺処分され、土の中に埋められることになっている。

この仕組みだと、新たな地域で感染牛・豚が見つかると、処分される家畜が幾何級数的に増大する。今後、どの程度の数の牛・豚を殺さなければならないか、見当がつかないほどだ。

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

赤松農林水産大臣を本部長とする「口蹄疫防疫対策本部」が設置され、「口蹄疫に関する特定家畜伝染病防疫指針」に基づき、

その数合わせると、合計27万7000頭もの牛や豚が殺処分され、土の中に埋められることになっている。

この仕組みだと、新たな地域で感染牛・豚が見つかると、処分される家畜が幾何級数的に増大する。今後、どの程度の数の牛・豚を殺さなければならないか、見当がつかないほどだ。

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」

「口蹄疫は何故恐れられるのか」